

放

送委員会の子どもたちにとって、お昼の放送番組は腕の見せ所である。とても地味だけれども大切な委員会活動が多い中であって、派手な印象を与えるので希望者が多い。子どもたちなりにいろんな企画を考えるようで、ころころ変わるのだが、「先生の秘密コーナー」は、好評と見えてけっこう息が長い。事前に先生に考えてもらって置いて、自分たちでクイズに仕立てている。

「問題だけ考えてもらえば、あとはぼくたちがおもしろくしますから。」

まじめな顔をして依頼に来たから、子どもたちの自信のほどがうかがえた。

同コーナーは、ぼくも楽しんでいる一人で、職員の外見な面を知る機会であり、話しかける材料にもしている。フラメンコやっている、○カ国行ったことがある、百メートルの記録持っていた、などなど。思わず「ほほう」と声の出るエピソードが登場する。

さて、ぼくに依頼があったとき、これまでの流れに反する異色なものを探してしまうのは、性格ゆえにしかたがないとして、どうせなら心がざわつくようなものがないだろうかといいたずら心が持ち上がった。

メモ紙に鉛筆で問題を書いた。放送委員は、答えだけくれれば良いと言っていたが、選択肢も書いた。読

んだ子どもたちは、ちょっとギョツとしたように見えただ。成功である。

「で、先生、答えは。」

「すぐ見えているところで放送するんだから、それは、そのときに教える。君たちもわからん方が楽しいだろう。」

一月近くたって、今日が放送だと知らせに来た。わざわざ言うところを見ると、彼らも答えを楽しみにしているらしい。

放送が始まった。「今日の先生の秘密コーナーは、教頭先生です。教頭先生が子どもたちの家の中で見えていたものは、次の何でしょう。①座敷わらし、②目玉おやじ、③トトロ」：。「選択肢が読まれると、校内がすつと静まったのが感じられた。放送当番の子がこちらを見る。ぼくは、黙って指を三本立てる。「答えは：です。」えーつという声が遠くから響いた。ついでに隣の事務室から職員員の「えーつ」がはつきり聞こえてきた。

翌日、下校支度をした低学年の女兒がぼくの方へやってきて、「いいなあ」としみじみ言った。

「君にしか見えないものを君も見ているんだから。」そう言ってやろうかと思つたが、余計なことだと思ひ直して、「さようなら」と言った。

夕焼け通信1298号 2021.3.8

〒690-0823 島根県松江市西川津町4276-B402  
miyakem@me.com gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/  
編集 宮森健次



専業ババ奮闘記(その2) 44

木幡智恵美

里帰り(5)

再検査の結果、実歩の時と同様、異常はなかった宗矢、母乳をたらふく飲み、どんどん大きくなっていく。「頭支えるのに、もう手が届かんわ」つぎはぎだらけのビニール製バスタブに入れる娘は必死で手のひらを広げる。私はいえ、宗矢が浸かると、バスタブから湯が溢れそうになるので、ビニールの整形をするのに必死だ。義母の世話をしながら、孫三人が家にいる生活にも大分慣れてはきたが、一番辛いのは、夜十分に眠れないこと。何せ、寛大も実歩も動き回る。少し風邪気味で鼻を詰まらせている実歩は、度々苦し気な息づかいをするので、鼻をつませたり、顔を反対に向けさせたりを繰り返さねばならない。子育て中は仕事もしていたのもつと大変だったはずだ。年がら年中寝不足状態だった。それでも何とかやっていたのは若かつたからだろう。

週末、土曜日に遊びに出た夫は、翌日曜日、寛大と実歩をJRに乗せると言って、連れて出てくれた。その間に宗矢を風呂に入れた。皆に昼食を摂らせ、孫たちを昼寝させ、少し外を歩こうかと思つたが、眠くてたまらない。二階に上がって炬燵にはまつたら、そのまま眠ってしまった。

節分の前日であるその夕、巻き寿司を作った。寿司は寛大も実歩も大好きなのだ。皆で夕食を摂っていると、一週間ぶりに赤ちゃんが顔を出した。寛大も実歩も大喜びで引つ付きまくるかと思いきや、実歩はお父さんと目を合わせようとしめない。お父ちゃん大好きな実歩なのに。

夜中、実歩は大泣きした。うちに来て初めてのことだった。宗矢が産まれた後、母親に近づけずにいた実歩が、寛大の大泣きに併せて泣き、ようやく素直に母親に甘えられるようになって安心していた。でも、まだ実歩の中には違和感がぬぐい切れずにいたのだ。いつも、お父さんとお母さんとお兄ちゃんとお父さんと暮らしている日常、夜は父さんとお風呂に入り、朝起きたらお父さんがご飯を食べている。その風景がすっかり変わってしまった。理解しようにもできない現実、実歩の感情はこういう形で噴出したのだ。母親に代わって、ただただ抱きしめるしか仕方がなかった。

30代フリーター やあ、ジイさん。戦後日本の左派・中道勢力が政権を取ったことごとく失敗した理由は「内部抗争と政権担当能力の欠如」にある、と朝日新聞編集委員の曾我家が書いていた（2月14日朝刊）。

1947年に成立した社会党中心の片山哲政権は補正予算さえ同党左派の造反で否決されて行き詰まった。1993年の非自民の細川連立政権は小沢一郎と社会党の対立で混乱し退陣した。そして2009年に自民党から政権を奪った民主党は消費税増税の是非をめぐって執行部と対立する小沢らが離党し、やがて下野した。

年金生活者 左派・中道勢力が政権崩壊に行き着くほどの内部抗争を繰り返すのは、知識人の主導する勢力だからだ。知識を相手にすることには、偽りで誤っているか、真か偽かで判断することを意味する。そこには妥協の余地がない。正しければ誤っていないし、偽なら真ではない。ふたつにひとつであり、6割くらい正

れ、退陣に追い込まれた。首相の持病は力不足を覆い隠すための口実に使われた。

アベノマスクや給付金10万円の配布にもたつくなど、国民の不信を買った政権の右往左往ぶりは、新型コロナが未知で未経験のウイルスであることに起因している。政権はなによりもその正体を知ること力を注がざるをえなかった。

「知る」ということは物事を正しいか誤っているか、真か偽かで判断することを前提にしている。安倍政権はコロナを前にして一時的に知識人主導の政権になったと言いうことができる。

30代 それでアベノマスクのような国民に評判の「良くない」判断をしたわけか。

年金 安倍政権はコロナ危機に対して、正しい判断、真なる判断をするのに躍起となり、良いか悪いかで判断するいつもの余裕を失った。そのぶん左派・中道勢力の行動パターンに近づいた。内部抗争にまで発展しなかったの

しく4割くらい誤っていると、7割くらい偽で3割くらい真とかといった判断はありえない。正誤、真偽の判断が異なると、対立はとことんまで行く。

30代 自民党はどんなに内部抗争をしても、下野するまでに至った例はほとんどない。

年金 この党が知識人主導の政党ではなく、したがって物事の判断を正誤、真偽ではなく、良いか悪いかによってしているからだ。自民党の副総裁だった金丸信の得意とした「足して2で割る」に代表されるように、6割くらい良くして4割くらい悪いといったような判断がこの党の選択の仕方になっている。だから、内部抗争をぎりぎりのところで止めることができる。

内輪もめする政党や政権の当事者たちは自分たちと対立相手にしか目が向かず、国民のほうを見なくなる。そのさまを目の当たりにした国民は「自分たちはなめられている」と感じる。それは今の国民が最も嫌う政治上の振舞いのひとつだ。選択的消費が必需的

は、その前に退陣したからだ。

だが、コロナの正体が少しずつわかるにつれ、自民党は良いか悪いかで判断するいつもの振る舞い方を取り戻し始めた。菅政権に交代してそれは明瞭になった。コロナに対しては封じ込めこそが医学的に「正しい」判断かもしれないが、それを続けると経済が「悪

消費を上回ったことによつて国家の権力の一部が個人に分散し、それを手にした国民が相応の処遇を政治に求めるようになっていくからだ。

現在の野党が政権交代を目指すなら、そのことを肝に銘じることが最低限必要であり、さらに言うなら、国民は正誤、真偽よりも、良し悪しで政治を見ていることを知らなければならぬ。

30代 左派・中道勢力は「政権担当能力」を欠いているとも曾我家は書いてる。

年金 「政権担当能力」とは、経験や知識の蓄積の多さだけを意味しているのではない。本質的には「国民から信用される能力」を指している。それは危機が訪れたときあらわになる。危機とは国民の生活の基盤を脅かす事態だ。その大きさを最小限に食い止めることのできる政権かどうかを国民は見極めようとする。

新型コロナウィルスはその種の危機のひとつであり、安倍政権はそれに対処する力を欠いていると国民にみなさ

く」なり、国民の不満はコロナ以上に募る可能性があるから、「良い」判断とはいえないと考えるようになった。

菅義偉があればGOTOトラベルに固執したのはそのためと推察される。政権の支持率は下がっても自民党の支持率が下がらないのはこういう融通無碍なところがこの党にあるからだ。それは国民の多くがまだ自民党に「政権担当能力」があると考えていることであらわれでもある。

30代 自民党と対照的に立憲民主党は「ゼロコロナ」政策を打ち出した。

年金 まずは「正しい」判断へと傾斜しつつある。それは経済を大きく損壊する恐れがある点で「良い」判断とはいえない。ありえない仮定として、いまこの党が政権に就いたとしたら、現政権のもとで起きている経済の落ち込みをさらに加速するだろう。感染は季節要因などによつて増えるときは増えるから、国民はそれを見て「何もできない政権」という烙印を押し、退場を求めるだろう。

ニュース日記 776  
中村 礼治

## 左派・中道政権はなぜ失敗するのか